

入学試験過去問題

数 学

大阪大学（文系）

対象年度：2002年

試験時間：90分

問題数：3問

第 1 問

次の問いに答えよ.

- (1) 実数の定数 p に対して, 3 次方程式 $x^3 + x - p = 0$ の実数解の個数は 1 個であることを示せ.
- (2) p, q は定数で $p \geq 2, q \geq 2$ とする. 2 つの 3 次方程式

$$x^3 + x - p = 0, \quad x^3 + x - q = 0$$

の実数解をそれぞれ α, β とするとき,

$$|\alpha - \beta| \leq \frac{1}{4}|p - q|$$

が成立することを示せ.

第 2 問

平面上に 3 つの放物線

$$C_1 : y = -x(x-1), \quad C_2 : y = x(x-1), \quad C : y = \frac{1}{2}x^2 + ax + b$$

を考える. いま実数 t に対して, C は C_1 上の点 $(t, -t^2 + t)$ を通り, その点で C_1 と共通の接線をもつとする.

- (1) a, b を t を用いて表せ.
- (2) 2 つの放物線 C, C_2 で囲まれた部分の面積 S を t を用いて表せ.
- (3) t を動かすとき, S の最小値を求めよ.

第 3 問

平面上に原点 O を中心とする半径 1 の円 K_1 を考える. K_1 の直径を 1 つとり, その両端を A, B とする. 円 K_1 の周上の任意の点 Q に対し, 線分 QA を $1:2$ の比に内分する点を R とする. いま k を正の定数として,

$$\vec{p} = \vec{AQ} + k\vec{BR}$$

とおく. ただし, $Q = A$ のときは $R = A$ とする. また, $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OQ} = \vec{q}$ とおく.

- (1) $\vec{BR}$ を $\vec{a}$, $\vec{q}$ を用いて表せ.
- (2) 点 Q が円 K_1 の周上を動くとき, $\vec{OP} = \vec{p}$ となるような点 P がえがく図形を K_2 とする. K_2 は円であることを示し, 中心の位置ベクトルと半径を求めよ.
- (3) 円 K_2 の内部に点 A が含まれるような k の値の範囲を求めよ.